

## 第5回 石狩市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成28年2月5日（金）10：00～11：00  
 2. 場 所 石狩市役所3階 庁議室  
 3. 出席者 6名（全員）

### 総合教育会議構成メンバー

役 職	氏 名
石狩市長	田岡 克介
教育委員長	徳田 昌生
教育委員（委員長職務代理者）	門馬 富士子
教育委員	松尾 拓也
教育委員	山本 由美子
教育長	鎌田 英暢

4. 事務局等 事務局

部 局	役職	氏 名
企画経済部政策担当	参事	伊藤 学志
	主査	武田 知佳
	主任	柿崎 惠一
	主任	小林 修

### 出席職員

部 局	役職	氏 名
生涯学習部	部長	百井 宏己
	次長（教育指導担当）	武田 淳
	次長（社会教育担当）	東 信也
	参事（指導担当）	濱本 賢一
生涯学習部総務企画課	課長	蛸谷 学俊
	主幹	松永 実
	主査	高石 康弘
生涯学習部学校教育課	課長	安崎 克仁
	課長（特別支援教育担当）	森 朋代
保健福祉部	部長	三国 義達
保健福祉部福祉総務課	課長	池田 幸夫
	主幹（企画総務担当）	高井 史朗
保健福祉部子育て支援課	課長	田村 和人
保健福祉部こども相談センター	センター長	上ヶ嶋 浩幸

## 5. 協議事項

- ① 開 会
- ② 平成 28 年度教育・子ども関連予算
- ③ 執行方針案について
- ④ 閉 会

## 6. 協議内容の記録（経過、質疑・意見）

### （開 会）

- ・本会議は、石狩市総合教育会議会則第 4 条第 1 項但し書きに基づき、非公開とする。  
非公開とする場合の例として、次年度新規予算事業の具体的な補助金額や対象の選定等、意思決定前に情報を公開することで公益を害する場合等と例示されており、本日の協議事項、平成 28 年度の教育・子ども関連予算案と執行方針案の 2 件を予定している。
- ・本日の議事録を作成し、確認後、公表が可能となる第 1 回石狩市議会開会日以降ホームページで公表する。

（一同了承）

【事 務 局】 「平成 28 年度教育・子ども関連施策予算」の一般会計全体の歳出予算は、297 億となり、前年度より 11 億 5,000 万の増となる。

教育費では、予算額 37 億 7,000 万となり、学校給食センター建設などにより、前年度より 13 億 6,000 万の増となる。

民生費では、予算額 90 億 2,000 万となり前年度より 4 億 9,000 万の増となる。民生費のうち、子ども関連の予算となる児童福祉費については、認定こども園の運営費などにより、1 億 7,000 万の増となる。

教育費と児童福祉費を合算した「教育・子ども関連予算」では、予算額 68 億 8,000 万となり、昨年度より 15 億 3,000 万の増で、うち一般財源ベースでも 1 億 2,000 万の増となる。

増加の主な要因は、学校給食センターの建設や認定子ども園の運営費などの計上によるが、平成 28 年度予算では財源ベースはもとより、施策事業においても、教育・子ども関連の重点化を図っている。

「平成 28 年度主な教育・子ども関連施策事業の概要」について、本年度策定した「教育大綱」の方針に沿って、国の「一億総活躍社会」施策とも連動させながら、貧困問題への対応や子育て支援など喫緊の課題解消を中心に施策事業を重点化した。

貧困対策関連では「すべての子どもたちが等しく学べる環境の充実」

として、制度の隙間からこぼれ落ちてしまった生活面、学習面での困り感やニーズをアウトリーチにより救いあげ、適切な支援につなげるため、生活支援員やスクールソーシャルワーカーを配置して、福祉・教育の横断的、複眼的支援体制を構築するための予算を計上した。

次に、「子ども・子育て支援」については、女性の社会参画推進の視点も持ちあわせながら、仕事と子育ての両立を支援するため、認定こども園整備を進めるほか、学童保育の量的、質的充実を図り待機児童ゼロを推進する。

また、国の施策とも呼応して、妊娠から出産までの切れ目のない支援を充実するため、新たに特定不妊・不育症治療助成を行うほか、「あいぽーと」前に公園を整備して子どもたちが心身ともに健全に育つことのできる居場所づくりを進める。

「特色ある学校づくり」については、小中一貫教育など、今日的な課題への対応と地域の特色を活かした学校づくりに向けた具体策を検討するための予算を計上したほか、安全でおいしい給食を提供するための機能を備えた新学校給食センターの本体工事予算を計上した。

**【教育委員】** 教育・子ども関連施策予算が大幅に増加されていることを高く評価したい。より良き教育を目指して教育委員として、なお一層頑張りたい。

**【保健福祉部】** 子ども総合支援について、子どもに関しての対策の強化は、今年度最大のテーマである。

まず一つは子ども達の将来へのステップアップ。学力というものが基本にあり、その学力支援の充実を図る。既に「あい風寺子屋」や長期休校中の学習支援についてはさらに拡充してとり進める。新規として中学校における学習支援モデル事業を行う。これらの事業のセーフティネットとして拠点型支援「ふらっとくらぶ」と「セジュール・まるしえ」の充実強化を行う。

NPOが運営する「セジュール・まるしえ」は、現在紅葉山の学び交流センター横の旧校長宅を使い、若者支援、引きこもり支援を行っており、さらに中学生や高校生の学習支援を加える。

さらにアウトリーチによる訪問チームをつくるというのが一番の新規メニューとなる。

「協育エキスパート」の構成員は「スクールソーシャルワーカー」2名、福祉の「家庭生活支援員」2名で、それぞれ生活指導等のベテラン職員を配置したいと考えている。それらの支援体制となる「子ども総合支援本部」を保健福祉部と生涯学習部で構成したいと考えている。この「協育エキスパートチーム」の連携強化は教育支援センター、こども相

談センターが一番情報の集約に長けているため、チーム化を図りたいと思う。

【教育委員】 このエキスパートチームの活動対象となる世帯、家庭は市内で大体どのくらいあると考えているのか。

【保健福祉部】 生活保護家庭で子どもがいる家庭と、ひとり親家庭についても十分リストアップできる。ある程度状況を把握しながら、教育支援センター、こども相談センターの方から「一度訪問に行ったが継続的な訪問が必要である」という診断をもとに、サポートチームでの訪問を考えている。

【教育委員】 大体どれくらいというのは、今のところは掴めないのか。

【保健福祉部】 今のところは掴めない。

【教育委員】 対象となる世帯をどう拾うのかは一番重要な問題。これは教育支援センター、こども相談センターでピックアップする他に、子ども達に一番近い学校の担任の先生を通してピックアップはできるのか。

【生涯学習部】 第1ターゲットという部分では、生活保護家庭やひとり親家庭、また不登校のうち2割程度しか「ふらっとくらぶ」に通っていないことから、残りの約8割が第1ターゲットになる。学校で把握しているところをスクールソーシャルワーカーと連携し、それを保健福祉部と共有、第2ターゲットになるイメージ。

【教育委員】 この「協育エキスパートチーム」の「協」については、石狩市は「協働」をキーワードに多くの取り組みを進めてきた経緯もある。また、「協育」は、協働で育てるという意味や各機関が協力するなどいろいろ含まれている。これからの市の方針を市民の皆さまに向けて「協育」という言葉の意味に焦点を当てながら説明していく事も必要であると思う。

【教育委員】 最初から完璧なものを求めるというより、走りながら考えながらより良いものを作るものだと思う。支援を受ける側にとって効果的な取組となるよう、フィードバックを大事に進めて欲しい。

【教育委員】 この個別訪問は、親と話しをするものなのか、それとも子どもも含めて親子で対話できるものなのか。

【保健福祉部】 親を通じてとなると子どもに接していくことができない。いかに子どもに接し、子ども自身に今後の生きる、自立する考え方、そこを最大の目的に考えている。

【教育委員】 例えば、授業中に「具合が悪い」と保健室を訪れてくる子どもが、朝ごはんを食べておらず、病気などではない場合がある。そういう保健室などからの情報が、学校を通して市の担当と情報のやり取りが出来れば支援するのに役に立つと思う。

【生涯学習部】 これまでも、情報があれば教育委員会の特別支援の方や教育支援センター全体、ときにはこども相談センター、それから教育委員会などに相談が入っている。

ただ、今回特に市全体で進めいくという事になれば、先生たちの見る目や、教育委員会、子ども総合支援本部に知らせるという意識が変わると思う。やはり学校にも市としての取り組みをしっかりと伝える事が大事だと改めて感じる。

【市長】 ほかのまちで「子ども食堂」というのをやっているのは、土、日曜日なのか。

【保健福祉部】 毎日やっているところはあまりない。関東では隔週など定期的を実施しているところもある。朝ごはんを食べないのは、体型を気にしての場合もあれば、食事を作ってもらえないというケースもあるので、その辺の対策も次のステップになると思う。

【市長】 今度の給食センターは、ダイエット教育もあるのか。

【生涯学習部】 食育の中にすでに取り込んではいいる。

【市長】 体型を気にして食事を抜くより、食事をしながら健康的なやせ方を教えた方が良いと思う。実際に子ども達のなかでそういう需要があるのなら、「ダイエットは子どものうちから考えるな」と思わないで、正しい知識を教えることも食育だと思う。

【生涯学習部】 学校で習ったことが家庭や社会の中で薄まってしまいうということも、現実あると思う。

【市長】 今後、いろいろ具体的な施策として出てくると思う。

【教育委員】 まずは実態を見ないことにはわからない。

【保健福祉部】 訪問しても子どもに「会えない」というケースがかなりある。

【市長】 ここで「いじめ」とか「DV」などの問題は絡むのか。

【保健福祉部】 全て絡んでいる。様々な要因が輻輳している場合がある。

【保健福祉部】 身体的虐待やネグレクトなどもある。例えば、親が精神疾患等で朝起きることが出来ず朝ごはんを作れないので、子どもは自分で用意して学校へ行くというケースがある。

(執行方針案について)

【事務局】 平成28年度の市政執行方針案は、3つの柱を重点とする。

一つ目は「子どもの未来を応援するまち」総合教育会議を踏まえた子どもの貧困対策への対応や人口減少社会のもと子育て支援の方向性、また手話施策の今後の展開について。

二つ目は「安全・安心・健康に暮らせるまち」健康施策や災害対策について。

三つ目は「進化し続けるまち」今後の発展軸となる企画「道の駅」「石狩湾スマートコミュニティ構想」やスポーツを通じたまちづくりなどについて。平成28年度の執行方針案は、「社会全体で生まれた利益は、子ども施策に優先配分する」との文言のとおり、子ども施策に関してはかなり重点を置いたことが特徴となっている。

【生涯学習部】 教育行政執行方針案は、大前提として教育プランの理念と施策を基礎として、教育プランに基づき三つの柱を重点とする。

一つ目は、子ども達が等しく機会を与えられ、確かな学力を育めるような取り組み。

二つ目は、子ども達の健全な心と体を育めるような取り組み。

三つ目は、地域が子どもを見守る・育てる取り組みやふるさと石狩における市民の主体的な学びの推進などの取り組み。

さらに総合教育会議を踏まえた子どもの貧困への対応として、地域や外部の協力を得ながら、組織的な学校支援に着手すること、また、福祉との連携を図りスクールソーシャルワーカーなどが、個々の家庭や子ども

もへのきめ細やかな対応を図ること。その他の大きな課題として、厚田区、本町・八幡地区における学校整備や学校給食センターの建設などについて記載。

【事務局】 両案について、ご意見等あればお願いしたい。

【教育委員】 市政執行方針案について、文中の「～ひとつの決断をいたしました。」との表現の後に、社会全体で子ども施策についてやりましょうという点で、非常にインパクトがある。教育行政執行方針についても、もう少し姿勢を前面に出した方がよい。

【事務局】 執行方針案について、精査し最終版を改めてフィードバックをさせていただきます。

(閉 会)

平成28年 2月29日

署名委員

松尾拓也

---